第 201 回「言葉の院外処方箋」

新渡戸稲造記念センター 長 樋野興夫

『種を蒔く人』 ～ 『からし種』 ～

筆者は、2023 年 9 月 14 日 『東久留米駅―＞秋津駅―＞徒歩―＞新秋津駅―＞府中本町駅―＞稲田堤駅―＞徒歩―＞京王稲田堤駅―＞京王多摩センター駅 ―＞スクールバスー＞恵泉女学園大学』のルートで、恵泉女学園理事長として、恵泉女学園大学の卒業式に出席する機会が与えられた。 大変貴重な時となった。

帰りは、『恵泉女学園大学―＞スクールバス―＞京王多摩センター駅』で下車し、『パルテノン大通り』を散策して、『多摩市立グリーンライブセンター』に寄った。 緩やかな坂道の散策には、大いに心が癒された。『多摩市立グリーンライブセンター』では、『恵泉多摩がん哲学外来カフェ』(代表：大木貞嗣氏)が、定期的に開催されている（画像、2021 年のチラシ)。2012 年 新渡戸稲造(1862-1933)生誕 150 周年記念事業としてスタートした。『人生の忘れ得ぬ良き想い出』ともなっている。

【種を蒔く人が、種蒔きに出て行った。 蒔いている間に、ある種は道端に落ち、人に踏みつけられ、空の鳥が食べてしまった。 ほかの種は 石地に落ち、芽は出たが、水気がないので枯れてしまった。 ほかの種は 茨の中に落ち、茨も一緒に伸びて、押しかぶさってしまった。 また、ほかの種は 良い土地に落ち、生え出て、百倍の実を結んだ。】（ルカの福音書 8 章 5～8 節)が 鮮明に思い出される日々である。

また、『からし種』の学びである。『どんな種よりも小さいのですが、成長すると、どの野菜よりも大きくなり、空の鳥が来て、その枝に巣を作るほどの木になります』は、『時代を超えて、時代を愛する』原点であろう。

『京王多摩センター駅―＞新宿駅―＞池袋駅―＞ひばりヶ丘駅』の『電車の旅』であった。池袋駅で偶然に『樋野動物園』2 号の編集担当で、[目白がん哲学外来カフェ(目白町教会)の代表でもある森尚子氏にお会いした。 12 月、東京湾での『樋野先生 たびの会 屋形船の夜』も企画されている。 ただただ感服である。 まさに、『自分の力が人の役に立つと思う時は進んでやれ』の実践であろう。

恵泉多摩がん哲学外来カフェ・スペシャル

コロナ禍のため休止している中で提唱者、樋野先生をお迎えしての特別なカフェを開催。皆様の奮ってのご参加をお待ちしています。(恒例の毎月第二土曜日開催に関しては未定)

がん哲学外来は 2008 年、順天堂大学医学部教授の樋野興夫(ひのおきお) 先生(一般社団法人がん哲学外来理事長)が、がん患者と医師の隙間を埋め、がんと共に生きる方々に寄り添う場を同付属病院に開設しました。
その後、この試みは『がん哲学外来カフェ』として、がん患者の方、その家族・遺族の方、がんを通して人生や命の意味を考える市民の集まりとなって、全国に広がっています。抱えておられる不安や悩みを皆さんとお話しすることで、帰るときには少し気持ちが軽くなる、そんな心の通いあう「対話の場」がここにあります。



樋野興夫先生

順天堂大学名誉教授
恵泉女学園理事長

12 月 15 日　水曜日

2021 年のチラシ

(中です)

問い合わせ先：多摩市立グリーンライブセンター　多摩

主催：恵泉多摩がん哲学外来カフェ、恵泉女学園大学
後援： 一般社団法人がん哲学外来、多摩市グリーンボランティア連絡会

当ガン哲学外来カフェは、大学も共に運営をしています。授業の一環として学生が参加することもありますがご理解ください。

